



2024 年 6 月 22 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 メール前文

テーマ『果因説を応用した神聖の言語化』

たぶんどなたもが、小学生時代の国語の時間に習っていたはずの「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どうした」。この言語表現の基礎は、神聖の言語化にも応用がすることができます。紙とペンを用意して、様々な角度から「誰が」「何を」「どうした」の三要素を基本にして、果因説的な言葉でそれらを書き表す（「私の心には愛が溢れている」など）ことで、私たちは自らに内在している神聖の在り方を、言語化して明確にイメージすることが出来ます。

「神聖を顕現した状態がどんな状態なのかと考えてみても、今ひとつはっきりとしたイメージが湧かない」と思われる方も、神聖を発揮している状態の未来の自分をどんどん言語化して書きためてゆくことで、神聖のバリエーションが確実に増えてゆきます。それは、書き表した言葉の数々が、神聖を想念・言葉・行為に顕わす指標として作用するためです。その段階でイメージが湧かない方は、49 種類の光明の言葉をベースにしてイメージすることで、神聖を発揮している状態の未来の自分の姿を、次から次へと言語化してゆくことが出来ます。

大切なことは理屈（左脳）を駆使して考えるのではなく、その様子のイメージ（右脳）を先に思い浮かべ、それらを素直に言語化することです。また、この神聖の言語化は、「誰が」「何を」「どうした」を基本パターンとしますが、「いつ」「どこで」「なぜ」「どのように」などの付加要素を加えることで、より鮮明にイメージすることが可能になります。

この神聖の言語化に時間をかけても構わないと思われる方は、七色の色紙をトランプカードくらいの大きさに切りそろえた紙をたくさん用意して、「誰が」「何を」「どうした」「いつ」「どこで」「なぜ」「どのように」のそれぞれに色を割り当てて、様々なシチュエーションにおける神聖の顕われを書き込んでゆくと、それらを種々に組み替え、眼で確認してゆくことをとおして、さらに神聖の姿のイメージが具現化していまいます。

また先日、講師の皆様と連絡があった「神聖の体験を振り返り、それを伝える場をつくる」という新しい課題を成就するにあたっては、私の経験上、ご自身の神聖復活の歴史を年表形式にして言語化してみることが効果的だといえます。（その際には、自身の観点と守護霊の観点の二種類の視点から書くことをお勧めします）それは、講師を呼んでお話を聞く際には、「はじめまして」の関係性の時にはたいていの場合、お話しの始めに、「私はどこで生まれ育ち、これこれこういう経験を経て、今日に至りました」のような、自己紹介的なお話がありますが、この取り組みは、そうした話の取っかかりを掴むのに有効だからです。

魂の目覚め・意識進化、心の成長など、神聖の復活にかかわるトピックに焦点をあてて、自身の神聖復活年表を書き表すと、そうしたお話をすると、箇条書きにしたそれらの項目を見ることで、サラサラと言葉が出て来ます。また、それをきっかけにして、個々のトピックに焦点をあてた、掘り下げたお話ができるようにもなります。

私は、この土曜日の夜のプログラムが、いずれは、そうした様々な方々の種々な体験談を共有する場になれば素晴らしいことだと思っております。

私たちの神聖復活に至る道のりを富士登山に例えますと、ひとりひとりが富士山頂を目指して、東西南北それぞれの方向から頂上を目指して登っていることに例えられます。その登り道は、誰一人としてまったく同じ道はありません。みんながオンリーワンのユニークな道を切り開きながら登っています。

私は、一つの登り道の体験談しか聞けないのと、様々な方角からの登山進捗を聞けるのとでは、様々な方角からの登り方を聞ける方が、よりたくさんの方々の神聖復活の助けになると信じております。それは、ひとりひとりが性格や性質も違えば、環境や性別も違うなかで、自分の登り道に近い道を歩んでいる人の体験談を聞ける方が、参加者全員の心に、より広く深い気づきをもたらすことにつながると思うからであります。

そのような理由から、今週の土曜日の夜は、過去も未来も内包した『今ここ』を生きながら、私たちひとりひとりが神聖の響きを明確に言語化できるようになるための、きっかけの日となるようなプログラムを行ないます。

★♥☆☆★♥☆☆★♥☆☆★♥☆☆★♥☆☆★

2024 年 6 月 22 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 初めの話

皆様、こんばんは。夜のズーム祈りの会を始めます。

本日は、メールにも書きましたように、神聖の言語化をとおして、将来的には私たちひとりひとりが、「神聖というのはね、こういうことなの」とか、「神聖復活というのはこういう意味なんですよ」などのように、今は真理を求める気配がない方々がやがて真理に目を向け始めたときに、その適切なタイミングや時期を見て、わかりやすい言葉で神聖をお伝えすることができます。

神聖復活を果たした私たちは、ラダーシップの考え方からいたしますと、氏子を守る氏神や、その土地に住む人々を守る産土神のように、縁ある方々を真理の世界へ誘うハシゴやエスカレーター、エレベーターなどの役割を担って今ここに生きています。

私自身の経験から申しますと、七年くらい前までの私は、神聖なるその役割を拒絶していて、「自分が大元の神仏、生命の本質と繋がってさえいれば、横の繋がり、人と人とのつながりはいらない。人間関係は面倒くさい」と頑なに思い込んで、孤高の一匹狼を気取っていました。

地球人類の神聖復活を先導するその私たちが、天岩戸神話のように、「他人(ひと)との関わりを避け、洞窟にこもって自己満足しているようでは、これから本当に神聖復活の時代が来るのに、このままではこの子は使い物にならない」と思われた私の守護の神霊は、6 年前に、Zoom 祈りの会に参加される方々の様々なお手伝いをする役割を与え、人間関係が得意ではなかった私を、金だわして擦り磨くような日常に置いて鍛えようとされました。

おかげさまで、その環境に置かれて三年目、2020 年の夏頃には、どなたが何を言われようと、何をされようと、その事柄に動じることなく対処できる基礎が出来上がりました。そのお蔭かはわかりませんが、2020 年の同じ時期に、Zoom 祈りの会の様々な裏方作業を能動的にお手伝いしようと、古賀さんが名乗りを上げてくださいました。

少し話が脱線しますが、その時の古賀さんは、パソコンも持っておらず、メール送信もしたことがない状態でしたが、そこから彼女は無限なる能力を発揮されて、今では私が一人で担当していた裏方作業のうち、三割から四割を担当してくださっています。

神聖を言語化して周囲の方々にお伝えするということも、古賀さんのように、自己限定の想いは脇に置いて、「全体（地球完成・神々の仕事等）のお役に立てるなら本望だ」という気持ちで前向きに取り組んでまいりますと、必ず出来るようになります。

本日はこのお話の初めての日ですので、具体的な実践はもう少し先にして、前半は、その取り組みについてお話しし、後半は、7回連続×3回の神聖復活の印を組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

はじめに、世界平和の祈りを日本語と英語で行ないます。

★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★

1. 世界平和の祈り

世界人類が平和でありますように。

日本が平和でありますように。

私たちの天命が完うされますように。

守護霊様、ありがとうございます。守護神様、ありがとうございます。

May peace prevail on Earth.

May peace be in our homes and countries.

May our missions be accomplished.

We thank you, Guardian Deities and Guardian Spirits.

June our missions be accomplished.

We thank you, Guardian Deities and Guardian Spirits.

★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★♥☆♥★

2. 意識しなくても使いこなせる学びになっているかについて

私たちは、私たち自身の人生をよりよくするための学びの努力が、意識しなくても使いこなせる状況に繋がっているかどうかを、時々振り返って、省みる必要があります。

どうしてかと申しますと、その場その時々、聞いただけや読んだだけ、書いただけや体を動かしただけで、身に付かずに忘れてしまうのでは、その学びを人生に活かしているとはいえないからです。

学んだはずのことを、後から意識的に努力しなければ行ない現わすことができず、意識の変容を呼び起こさない実践だったとしたら、それは、私たちのこれまでの努力が外的外れな方向に意識の矢を放っていた状態だったといえます。そうであるなら、私たちは、的を定めた適切な学習形態、意識しなくても使いこなせる意識吸収のあり方に軌道修正する必要があります。

たとえば、人類共通の望みのひとつに、「幸せに暮らすこと」があります。「不幸せでありたい」と思う人がいないにもかかわらず、「私は幸せじゃない」と感じておられる方がいるのはなぜでしょうか？

それは、潜在意識の底で、「私には幸せに生きる価値がないんだ」「どうせ私は、幸せとは縁遠い星の下に生まれたんだ」と自らをさげすみ、いのちが持つ無限の力を否定し、自らを弱いもの、低いものと認識して、自己限定をしてしまっているからです。

そのような状況にあって、私たちが日々吸収し、再確認しつつけている真理が、意識しなくても使いこなせて、日々の生き方にも繋がる学びにするためにはどうしたらよいのでしょうか？

先ほどの「幸せに生きる」を例にしますと、自分が幸せに生きることにオーケーサインを出して、心の中の世界人類に安心感を与えてあげることです。

今苦悩を感じていらっしゃる方がもしおられましたら、この後取る瞑想タイムに、どうか「幸せに生きてもいいんだよ」と自分に語りかけてください。

今特にそのように感じていない方は、「私はもっと幸せに生きることが出来るんだよ」と、ご自分に話しかけてください。

そのときには、守護霊様を心の中に呼んで、守護霊の意識で語りかけることをお勧めします。それでは3分間音楽を流しますので、音楽が流れている間に、ご自分のブロックが緩まるような愛の言葉を思い浮かべてください。

★♥☆★♥☆★♥☆★♥☆★♥☆★♥☆★

3. 神聖の言語化について

地球の平和を心から祈り、神聖復活の印を組みつづけてきた私たちは、それがどんな些細な経験であっても、神聖に至る何らかの体験をしてきております。私、全国の方々とお話する機会があるんですけど、「いや、私なんて、そんな経験はありません」とか、おっしゃる方が時々いらっしゃるんですけど、神聖の体験、神聖に至る体験…、それは気づきかも知らないですし、他人との関わりの中で、今までになかった変化が起こったとかという経験かも知れませんし、いろいろな形で、皆さんお一人お一人が必ず経験していることだと思います。

しかし、自分を磨き高めてきたどのような尊い経験の歴史も、どんなに素晴らしい神聖なる気づき・直観・ひらめきなどの体験も、それらをその場・その時にメモしたり、あとで振り返って言葉として記録しておいたりしなければ、それらの神聖なる体験は潜在意識の海に流れ出て、薄まってしまい、後でよほど意識的に思い出そうとしなければ、それを言葉にして思い出すことも、まして人に伝えることも難しくなってしまう。

また、よほど意識的に思い出そうとしなければ、それを言葉にして思い出すことも、まして人に伝えることも難しくなってしまう。それはどうしてかと申しますと、神聖なる体験を言語化する取り組み、言葉として表現する取り組みをしていなかったからです。

では、どうすれば、それができるようになるのでしょうか？俳句や短歌をつくったり、詩を書いたり、日記を書きつづけたりするように、ご自身の神聖復活の歴史を振り返りながら、書き表わしてみることがその取っ掛かりになります。

今日は時間がないので、ここで年表を書く取り組みは行ないませんが、これは六月一五日の勉強会で行ないました。また、メールにも書きましたように、「誰が」「何を」「どうした」の三要素を基本にして、ポジティブな言葉でそれらを書き表すことで、私たちは自らに内在している神聖の在り方を、言語化して明確にイメージすることが出来ます。

これらの取り組みをやってみようと思われる方がおられましたら、お時間のあるときに、お一人でためしに行なってみてください。

★♥☆★♥☆★♥☆★♥☆★♥☆★♥☆★

4. 神聖復活の印

次は、神聖復活の印です。「はい」の合図で、ご一緒に宣言をしてお組みください。7回連続を3セット行ないます。それでは始めます。はい。

<一回目の宣言>

私達はすべての自然と一つに結ばれています。

すべての自然の天命は完うされています。

[神聖復活の印を七回連続]

<二回目の宣言>

私達はすべての生物と一つに結ばれています。

すべての生物の天命は完うされています。

[神聖復活の印を七回連続]

<三回目の宣言>

私達はすべての人類と一つに結ばれています。

世界人類の天命は完うされています。

[神聖復活の印を七回連続]

★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★♥☆💙★

以上